

令和4年度 江戸川区立一之江第二小学校 学校関係者評価 最終評価用報告書

学校教育目標	・よく考え、進んで学習する子ども ・思いやりがあり、助け合う子ども ・体力のある、元気な子ども	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	・笑顔あふれる学校 ・自ら学び、自ら考える子ども ・「子ども」「授業」「研修」「人の和」を大切にする。
前年度までの学校経営上の成果と課題	＜成果＞・全教員が協働し、児童の健全育成にあたった。全校体制で「あいさつ励行」に取り組むことによって成果を上げることができた。 ・学年をこえて、一之江二小マナー、学習の約束を基に、学習スタイルの統一を図ることによって、成果をあげることができた。 ＜課題＞・eライブラリアドバンスを活用した学力向上の取り組みの充実を図る。 ・一人一端末を用いたICTを効果的に活用した授業展開の充実を図る。		

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価			学校関係者評価		来年度に向けた改善策
					取組	成果	成果と課題	評価	コメント	
いきいきと学ぶ学校づくり	確かな学力の向上	・「確かな学力向上推進プラン」の実施・改善や補習の実施などによる指導の充実と授業力の向上 ・eライブラリを活用した基礎・基本の知識の定着	各学年週に一回の放課後、水曜日の朝の時間を活用した補習を年間に35回以上行う。	学力診断テスト(算数)の学級平均点を85%以上にする。	A	B	・放課後補習教室を有効に活用できている。 ・eライブラリを活用する場面があまり作れなかった。	B	・家でも学習習慣を身に付けさせていきたい。 ・全国学力状況調査で都、全国の平均を大きく上回ることができたことは大変良い。次年度も期待したい。	『ドリルパーク』を有効に活用して、学習習慣や基礎・基本的な学力の定着を図っていく。
	体力の向上	・体育の授業や休み時間における全体運動遊びなど主体的な運動の実施による運動意欲の向上	年間を通して週1回の休み時間を活用した運動あそび「いちにピック」を行う。持久走週間を設定する。	学校生活アンケートにおいて、「運動やスポーツが好き」と感じる児童を85%以上にする。	B	B	・毎日一度の外遊びの時間を用いて全児童が一度は外に出ている。 ・「いちにピック」の時間に使える道具が少ない。	B	・体力向上に向けて、いろいろな手立てを講じている。	・「いちにピック」の際に使用できる道具を増やす。 ・児童が主体的に取り組める遊びを提案する。
	外国語教育の推進	・授業力の向上とALTの効果的な活用	外国語専科を中心とした外国語科・外国語活動の年間指導計画に基づいた授業内容の充実を図る。	学校生活アンケートにおいて、外国語の授業に進んで取り組んでいる児童を90%以上にする。	B	B	・学習発表会で高学年が英語をテーマにするなど、授業以外でも英語を使う場面を作れた。	B	・学習発表会で高学年の発表を見て、あんなに英語を話すことができるなんてすごいと思った。	今年度の反省を生かして来年度の英語指導の計画作りを進めていく。
	読書科の更なる充実	・読書を通じた探究的な学習の充実(読書科ノートの活用、資料の収集の仕方や記録の取り方の指導、自己の考えをまとめ表現する方法の指導、朝読書と1単位時間の授業との関連付け、他教科との関連等) ・学校図書館の整備、学校図書館を使った授業の充実	学校図書館の環境整備の推進、全校での読書教育の活性化、教科などでの学校図書館の活用推進を図る。	・学期に1回以上の学校図書館を活用した調べ学習を実施する。 ・学校生活アンケートにおいて、1ヶ月に5冊以上本を読んでいる児童を70%以上にする。 ・季節感のある装飾を定期的に行う。	B	B	・国語や総合的な学習の時間などにおいて、意識的に書籍を活用した調べ学習を行っている。 ・読書週間や図書ビンゴなど、読書に親しむための取組を積極的に行った。	B	・読書週間のおかげで本が好きになり、家でも読書をする姿が見られるようになった。	・引き続き、意図的に図書館を活用した授業を行っている。 ・図書館の整備に力を入れていく。
特別支援教育の推進	共生社会の実現に向けた教育の推進	・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の充実	・生活指導全体会での情報共有をする。(1学期・3学期) ・講師を招いて特別支援研修会を年1回実施する。 ・巡回指導教員と随時、連携する。	・指導についての記録をとり、巡回指導教員、学級担任、保護者で回覧する。 ・年間5回の校内委員会を設ける。 ・年間5回の校内判定委員会を設ける。 ・その他、必要に応じて臨時で委員会を開く。	B	B	・生活指導全体会の他に、毎週の生活指導夕会を行い、全体で情報を共有している。 ・ソーシャルスクールワーカーを講師に招き、特別支援研修会を行った。	B	・担任以外の教員も関わりながら指導してくれるので安心できる。	今後、「報告・連絡・相談」を徹底し、組織的な対応を行っている。
	子供たちの健全育成	・子供たちの健全育成に向けた取組	・生活指導や道徳教育を充実させる。 ・外部機関と連携し、いじめ、不登校に早期に対応する。	・学校生活アンケートにおいて、「学校が楽しい」と感じる児童を90%以上にする。	B	B	・早期発見、迅速な対応を心掛けるとともに、組織的な対応ができています。	B	・個人のケアにソーシャルワーカーの取組がとても評価できる。	今後必要に応じて関係機関と連携を取りながら対応していく。
学校と家庭、地域、関係機関との連携強化	学校評価の反映	・児童、保護者、学校評議員会などを対象としたアンケートを反映させる。	・11月に児童及び保護者に対してformsを活用したアンケートを行う。 ・その結果を受け、協議を経て必要に応じて修正する。	・学校評価アンケートにおいて、地域や保護者と連携を取りながら教育活動を推し進めていると感じる保護者を70%以上にする。	B	B	・全児童を対象に学校生活アンケートを実施した。 ・保護者アンケートにおいては、250以上の回答を得ることができた。	B	・ICTを活用してアンケートをしてくれるのでありがたい。	来年度も様々な保護者アンケートをformsで行うようにする。
	学校に関する情報の発信	・学校ホームページの充実と、それらを活用した情報の発信の充実	・学校経営方針や教育活動の様子を積極的に発信する。	・毎月、250件の学校日記の更新を行う。	A	A	・毎月のベースをきちんと保ちながら、日常の様子を学校日記を通して伝えることができています。	A	・コロナ禍で、学校の様子が分かりづらいうち、学校日記のおかげでよく分かる。いつも更新を楽しみにしている。	引き続き、学校日記の更新を続けていく。
	学校応援団を中心とした人材の活用	・学校応援団と連携をとりながらの積極的な人材活用	・図書担当を中心に、「いちにのくれよん」と連携をとりながら読み聞かせ活動の充実を図る。 ・「ぐりぐら会」による図書館の環境整備を推進する。	・月に一度、朝読書の時間に全学級にて読み聞かせを行ってもらう。	B	B	・全学年が1か月に一度、ボランティアによる読み聞かせを実施することができている。	B	・これからも「いちにのくれよん」による読み聞かせを続けてほしい。	引き続き、読み聞かせを続けていくと共に、コロナ対策を万全にしながら「ぐりぐら会」と連携をとって、図書館の整備も進めていく。
特色ある教育の展開	「学校における働き方改革プラン」	・「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施	・会議の精選を図る。	・職員会議を2か月に一度にし、週2回の夕会や連絡掲示板を活用する。	B	B	・夕会や連絡掲示板をうまく活用し、2か月に一度の職員会議でも円滑に学校運営を行うことができている。	B	・とても熱心に指導して下さっている先生方にも健康に気を付けて生活してほしい。	引き続き、夕会や連絡掲示板を上手に活用していく。
	小中連携教育の推進	・「小中連携教育構想」及び「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実。	・中学進学に向けて、学校生活に前向きに取り組める児童を育てる。	・中学校と連絡協議会を年間2回行う。 ・学校生活アンケートにおいて、「授業に集中して取り組んでいる」と感じる児童を90%以上にする。 ・学校生活アンケートにおいて、「宿題や家庭学習をきちんとしている」と感じる児童を90%以上にする。	B	B	・今年度の中学校との連携協議会は、1月に行う予定である。	B	・小学校と中学校とが、連絡を取り合ってくれているのは、ありがたい。	来年度も松江五中、一之江小と連携を図りながら小中連携を行っていく。